

PALAU, PELELIU

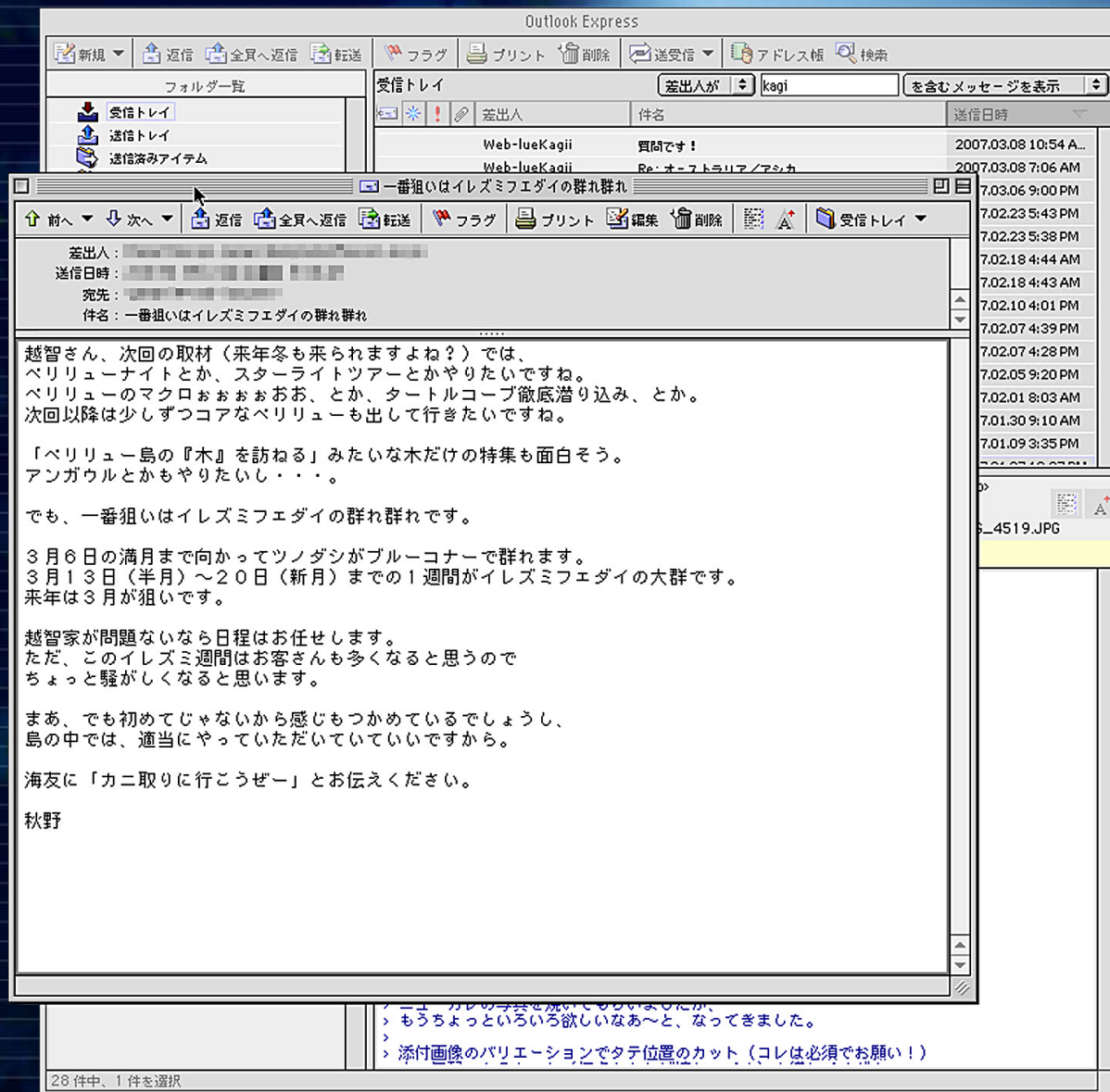
ペリリュー島の空撮。手前右端がイエローウォール。左の半島の先端手前がペリリューエクスプレス

今年もペリリューにやってきた。穏やかな海や、素潜りでの大物撮影を得意とする自分が、
こんな激しい海に頻繁に潜りに来ることになろうとは夢にも思っていなかった。
そこには、信頼できるガイドとの出会いがあった。デイドリームペリリューステーションの総指揮を執る秋野大さん。
今回はFocus on Seasideでも彼のペリリューの海に対しての思いを語ってもらった。
彼の存在が、僕をこの島へ、そして海へと導いた。
1年前から、二人で次なるターゲットを決めて、
今回のロケスケジュールを調整していた。
狙いは、数ある生物の中でも期間超限定のイレズミフエダイの大群だ。

期間超限定! ペリリュー・イエローウォール
イレズミフエダイの大群を狙え

PHOTO & TEXT : TAKAJI OCHI
SPECIAL THANKS : DAY DREAM PELELIU STATION

YELLOW WALL



ペリリューへ誘う、 秋野さんからのメール再び

……そんなメールに誘われて、僕は、また今年（2007年）も、

ペリリュー島を訪れた。

今回は妻と長男と僕の3人に加えて、

新たに生まれた3ヶ月の次男とともに。

もちろん家族旅行ではなくて、目的は取材。

そして、メインターゲットは、

イエローウォールに群れるイレズミフェダイに決定した。

**PALAU, PELELIU
YELLOW WALL**

期間超限定! ペリリュー・イエローウォール イレズミフェダイの大群を狙え

Web-lue 2007. Spring

Information Link <http://daydream.to/peleliu/index.html>

イエローウォールの黄壁を埋め尽くす、イレズミフエダイの圧倒的な魚群。
その数十万にも及ぶのではと思われる

驚愕の黄壁

PALAU, PELELIU

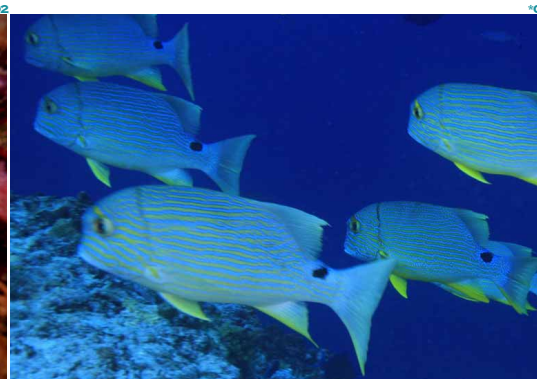
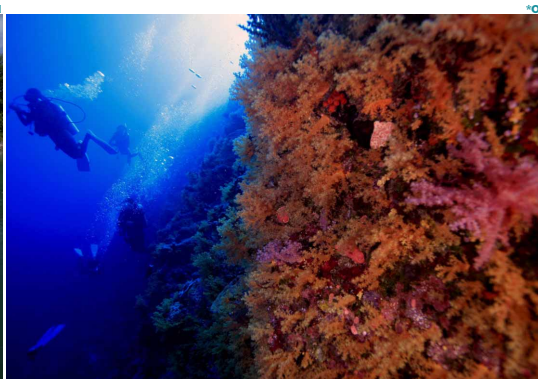
YELLOW WALL

リーフが青乳白色で
埋め尽くされている。
イレズミフエダイだ！

期間超限定! ペリリュー・イエローウォール イレズミフエダイの大群を狙え

Web-lue 2007. Spring

Information Link  関連情報HPへ
<http://daydream.to/peleliu/index.html>



PALAU, PELELIU YELLOW WALL

*01/イエローウォールやペリリューエクスプレスにエントリーするときに使用される、島南端のキャンベックの港
 *02/イエローウォールの所以になっている、ドロップオフを埋め尽くす黄オレンジ色のソフトコーラル
 *03/普段は単体でも、目撃するのは稀なイレズミフエダイがここまで群れるだけでも信じられない光景だ
 *04/カレントが変わった直後、イエローウォールから、エクスプレスの方へと大移動を始めたイレズミフエダイたち

圧巻! イレズミフエダイの大群

イエローウォールは、ペリリュー島の南東に口を広げる二つのビーチに挟まれた小さな半島の沖、ペリリューエクスプレスの北側に位置するポイントだ。半島の北端からエントリーしてしばらく泳ぐと、ドロップオフのリーフ上が青乳白色で埋め尽くされ、その先がまったく見えなくなる。それがイレズミフエダイの群れであることは、すでにわかっていた。今まで、単体でも珍しいと思っていた魚が、目の前に壁となって立ちはだかる。「寄ると微妙な距離を保って逃げるんです」。秋野さんからそう聞かされていたから、僕は興奮を押し殺して、慎重に群れへと接近していく。

しかし壁は、僕たちの動きに合わせて、同じような速度で後退する。無数の魚群が連なってリーフからドロップオフへとなだれ込む様は、アフリカに生息する草食動物のヌーの大群が川になだれ込むシーンのように迫力がある。その流れは、延々と続き、途切れることを知らないようだ。

僕は、ガイドの秋野さんや、一緒に潜っていたダイバーたちと、群れを追いつ追いつくように前進を続けた。追われた魚たちは、それより前にいた魚たちと重

なり合い、巨大な魚群は、益々魚圧を増して行き、一瞬行き場を失ったイレズミフエダイたちは、僕の格好の被写体へと変化していく。「チャンス!」とばかりに、僕は何度も何度もシャッターを切り続けた。

「イレズミフエダイは普段は、おそらく水深200~300mくらいに生息している魚なので、ほとんど見ることの無い魚たちです。イレズミフエダイが群れることは、僕がパラオ来た10年前にはすでに知られていました。でもどちらかと言えば有名だったのは、シャークシティの方。GW前と9、10、11月の新月前にリーフトップに群れるのですが、リーフの大きさの割りに、群れが小さいんですね。小さいと言っても、万の単位ですけど。」

規模で言えば、イエローウォールの方が全然すごいですよ。45分間のダイビング中ず〜っとイレズミフエダイの壁が続くほどの大群になります。数え切れないから、何匹くらいですかって聞かれるけど、答えられない。自分で見に来てとしかいえないですね。本当に10万とか、20万とか……。それ以上なのかもしれないし」。

何故奴らは大群を作るのか?

イエローウォールにイレズミフエダイが大群団を形成するのは、2、3、4月の新月前。特に3月が一番すごい群れになるのだそうだ。「ただ、年によって微妙に違うみたいです。去年は2月も出ていたけど、今年は2月は0でした。確実なのは、やはり3月ですね」。なぜ、パラオの西端のシャークシティと、南端のイエローウォールで春と秋にそれぞれ群れを形成して圧巻な姿を見せるのか……。

「これは憶測でしかないですけど、同じ個体群がシーズンによって移動してるのではないかと思います」。

イエローウォールで、イレズミの群れが見れるのは、潮がエクスプレス側に流れているとき。逆からの流れのときには、その巨大な群れは、どこかに姿を隠してしまうのだという。「おそらく逆のときには、エクスプレスの先端のリーフ上にいるのではと思います。大群を形成するのは、放卵のため。きっと夜になるとリーフ上ですごいことになっていると思いますよ」。

今回、その推測を裏付けるかのような群れの移動を目撃した。潮がエクスプレス側から、逆側

に変わるまさにそのときに、イエローウォールにエントリーしたときのことだ。イレズミフエダイたちは、少しづつエクスプレス側へと移動を始めていたので、普段とは逆位置からエントリーして、群れを待ち受ける作戦を取ることにした。

この流れでイレズミ狙いで入るのは初めてのことだという。エントリーして、ドロップオフ上のリーフを探すが、まったく姿が見えない。(まだ、ここまで移動してないのかな?)と思いながらふと下を見下ろすと、ドロップオフにそって、イレズミフエダイたちがエクスプレスの方へ向かう、川のような細長い列が続いているのが見えた。

そして、その翌早朝、エクスプレスを潜ったときに、僕は信じられないシーンに遭遇することになったのだった。その状況はまさに、スターウォーズの宇宙での空中戦に突入してしまったかのようなだった。詳細は、次回9月アップのWEB-LUEで刻銘に掲載する。

期間超限定! ペリリュー・イエローウォール イレズミフエダイの大群を狙え

Web-lue 2007. Spring

Information Link <http://daydream.to/peleliu/index.html> 関連情報HPへ

これほどの大群でありながら、ダイバーの接近をそう簡単には許してはくれない。
撮影するには、一緒に潜ったダイバー同士の協力が必要だ



驚愕の黄壁

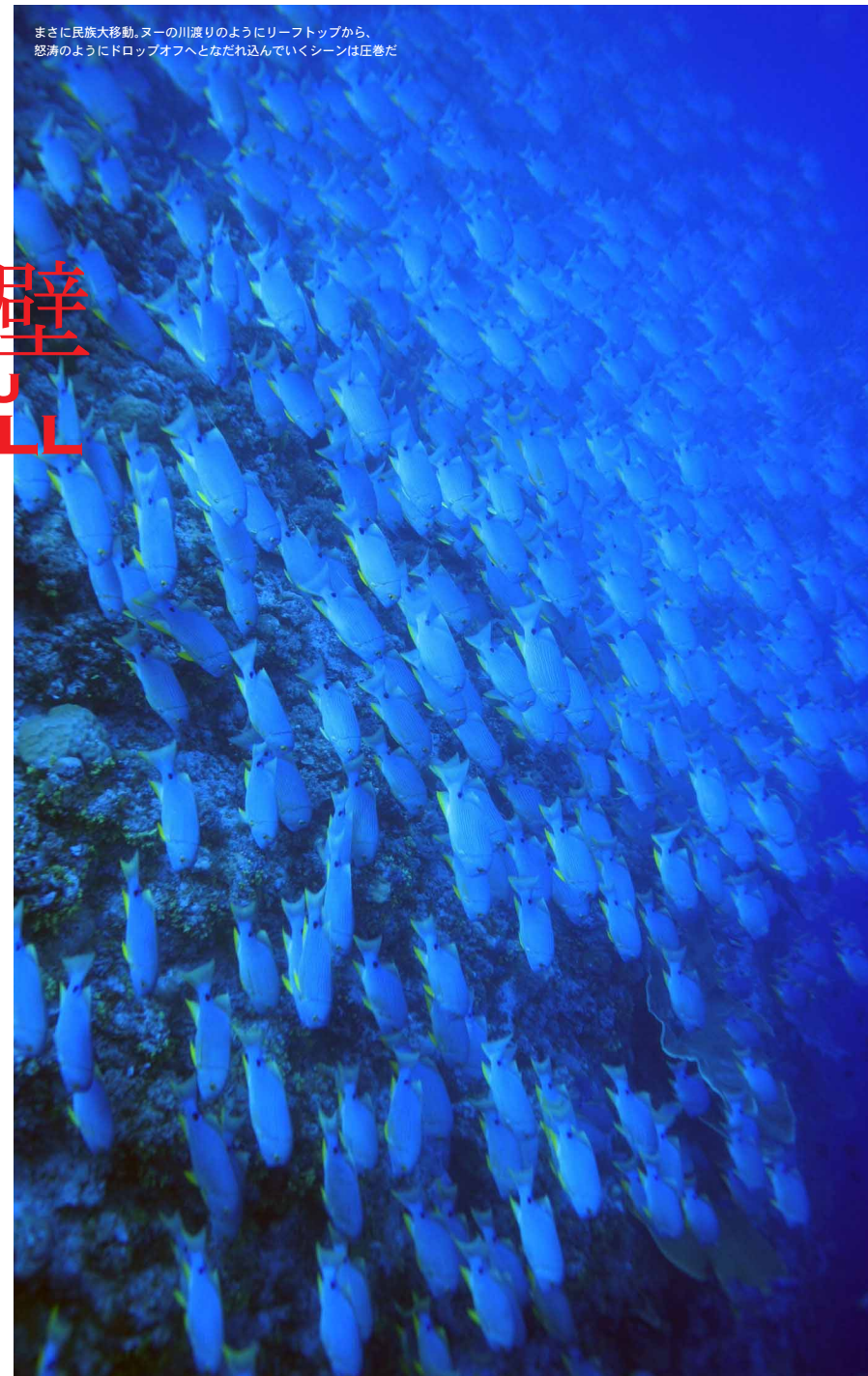
PALAU, PELELIU YELLOW WALL

僕は何度も何度も
シャッターを切り続けた



*01/海中に入っの入念なカレントチェックを終えて、ボートに戻る現地人ガイドたち
*02/イエローウォールのリーフトップを悠然と泳ぐオウミガメ
*03/巨大なイソマグロたちが、十数匹の群れで姿を見せてくれること

まさに民族大移動。ヌーの川渡りのようにリーフトップから、怒涛のようにドロップオフへとたれ込んでいくシーンは圧巻だ



期間超限定! ペリリュー・イエローウォール イレズミフエダイの大群を狙え

Web-lue 2007. Spring



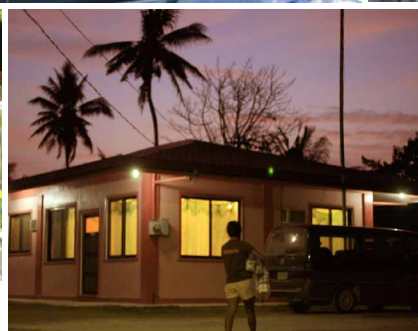
*01



*02



*03



*04



*05

*01/エントリー前から、ボート上はイレズミフエダイの群れ情報で満ちたっている
 *02/イレズミフエダイの大群を目撃し、カジキを目撃して、満足のゲストとスタッフたち
 *03/はにかみながら、無邪気な表情を見せてくれる、ペリリュー島の子供たち
 *04/朱色に染まった空とデイドリームペリリューステーション
 *05/撮影:立川和代さん イエローウォールで目撃されたマカジキ。滞在中、同ポイントでは、計3回の目撃情報があった



PALAU, PELELIU YELLOW WALL

TO BE CONTINUED
2007,09



次回掲載予定
「シーズンイン直前ペリリュー特集」で
更なる驚愕の事実が明らかに!

(2007年9月掲載予定)

カジキ目撃チャンスも多いイエローウォール

イエローウォールでは、カジキの目撃情報も多い。秋野さんが以前11匹のカジキを一度に目撃したのもこのイエローウォールだった。今回の滞在中も、前半の数日間で3回カジキが目撃されたが、全てイエローウォールでのことだった。残念ながら、自分自身は撮影できなかったのだが、ゲストの一人がコンパクトデジカメで、あっさり撮影してしまった。今回はその写真を紹介させてもらった。イレズミフエダイの撮影で忙しく、いつも外洋に目を配ることは、この時期なかなかできない。しかし、

安全停止中の目撃が多いため、僕たちは、ほぼ毎ダイブ、エアの持つ限り安全停止をしてブルーウォーターを凝視し続けていた。

この記事は、僕のペリリュー滞在期間前半の状況にしか触れていない。後半でどれだけカジキを目撃したかは、次回、2007年9月にアップする予定のWEB-LUEペリリュー特集でお伝えしたい。と、期待させておきながら、まったく見ていない可能性だってあるのだけど。

とにかく、ペリリュー滞在中は、毎ダイブ毎ダイブ、

予測のつかない遭遇に興奮させられた。そして激しいダイビングを終えて島に戻ってくると、のんびりとした雰囲気の日常に心を和ませる。そこに家族がいてくれるのも、自分にとっては心の安らぎを与えてくれる大きな大きな要素になっていた。3歳の長男は、今年もこの島で全裸で元気に走り回っていた。

期間超限定! ペリリュー・イエローウォール イレズミフエダイの大群を狙え

Web-lue 2007. Spring